

各地での団体の取組み(3)



【枝幸町】 うたのぼり・癒しの森 オムロ 「音夢路」森づくりの会

報告者 田中 利幸氏・土谷 恒男氏

(1)経緯

過疎化の進行や少子高齢化により地域が衰退していくことが危惧されておりました。そして平成18年に宗谷管内枝幸町と歌登町が新設合併いたしました。

音夢路の森は歌登自治区にある、田中建設株式会社の所有森林を、地域の人々の交流の場として活用できないか、森林組合、浜頓別町にある宗谷総合振興局森林室(当時の森づくりセンター)に相談しました。そしてみなさんの協力をいただいて平成19年に癒しの森「音夢路」を開設し、森づくりの会の前身の利用促進研究会が発足しました。

研究会はこの森を地域資源として生かしながら、自然環境の保全や町民の健康増進を図る事を目的としています。

(2)癒しの森「音夢路」について

枝幸町の東、歌登市街地より徒歩で20分程度のところにあります。旧歌登町に開設した面積203haの森林です。名前の由来は、この森林のあたりが、アイヌ語で「オムロシュベツ」と呼ばれていて、その略称を漢字に置き換えたものです。

音夢路を整備するにあたって森づくりセンターに相談したところ、センター長はじめ職員一同で企画書を作成していただきました。この企画書に基づいて整備が進められ、音夢路のコンセプトとなる「住民交流の場となる快適な森林」・「体験や生涯学習として利用する森林」・「地域住民の健康づくりの森林」・「森林を生かした林産物生産の森林」の4項目がつけられました。

企画書に基づいて音夢路を周回する林道を森林内の歩行路として活用し、健康づくりや森林浴が楽しめるウォーキング・コースを設定し、歩行路沿いにさまざまな区域を整備しました。主なものとして、セラピーロード、出会いの広場、観察の森、生産の森、小鳥の森、長寿の森などです。

・セラピーロード

コースの全長は3.8kmで、入り口から出会いの広場や観察の森、生産の森などをコース上に整理しています。セラピーロードは、今年度の交付金事業で間伐を行い、明るくより歩きやすい快適な環境が整いました。

・出会いの広場

音夢路の入り口からスロープを上がるとセラピーロードの入り口、その先を少し進むと出会いの広場があります。この広場には花壇を整備し、周りに桜やコスモスなどを植えました(桜の木は、エゾシカの食害のため全滅した模様)。出会いの広場付近のビューポイントからは、歌登市街地の眺望が楽しめます。最近では、お盆などに里帰りされた方が、よくここを訪れて風景をたのんでいるそうです。

・生産の森

森の恵みを楽しむためキノコの栽培をしています。春・秋にはシタケ、その他、ナメコなどを採取しています。

・観察の森

森林でのウォーキングが単調にならないよう、四季折々に変化する木の幹に、樹木プレートを設置しています。ミズナラ、トマト、エゾマツ、イチイ、エゾヤマザクラ、カバ、クルミなどがあります。ここを観察の森と呼んでいます。

この先を進んでいくと、函岳(大雪山以北の最高峰：標高1,129m)が眺望できるポイントがあります。ウォーキング・イベントでは、この場所で昼食を取るようになっています。

生涯学習の取組みもしています。NPO法人森林遊びサポートセンター理事長の小林文男さんに「森の元気・人の元気・町の元気」という内容で講演をしていただきました。講演会後の観察で樹齢測定なども行いました。





「出会いの広場」付近のビューポイント。歌登地区の眺望が楽しめる。

・森づくりの会について

前身の利用促進研究会をさらに発展させたもので、平成26年7月に発足しました。目的は地域の人が共同で森林・山林の持つ多面的な機能を十分に発揮できるような活動を通して地域の活性化を促すことです。構成員は21名。年5回のウォーキングの集いを中心に参加する人が快適に音夢路を散策できるように、森の整備を進めています。

・森づくりの会の活動内容

活動推進費として初年度のみで15万円、地域環境保全タイプとして里山林の保全として1ha当り16万円、教育・研修活動タイプで1回当り5万円の交付を受けています。平成26年度は、総計で60万円の交付を受けました。それまで利用促進研究会のボランティアで行ってきた活動に対して費用を支払うことができました。そのため森林保全作業の回数や面積を増やすことが可能となって、たいへんありがたい事業だと感じています。また、教育・研修活動タイプの交付金を使ってウォーキングの集いの参加者に対して、安全対策を含めた教育も実施することができました。

初年度は3ヵ年計画を整備しなければならないということで、21名のメンバーの大半が集まって事業計画の会議を行いました。この会議によって良い内容の計画が出来たのではないかと感じています。

ウォーキングの路網を中心にして、山の中が見えづらく熊など動物の存在が確認できないということで、透けて見えるように間伐を行いました。

私はもともと山林経営をしており、これだけの木を切っても大丈夫なのかと思いましたが、思い切って透かしてみたり、子どもたちが森の中で遊べる場所を作ったり、森を所有する田中建設さんの経営的にはデメリットだったと思いますが、全体的には歌登地区を盛り上げるための投資をしていただいたと感じています。

事業を執行する前には、木がうっそうと生い茂っていて、笹も茂っていました。森林経営的にはたいへん痛ましいのですが、思い切って木を切りました。長寿の森の樹齢300年以上あるシンボルの木が離れた場所からでも見えるように、周辺の大きな木も

伐りました。伐り過ぎたのではという感もあります。

ウォーキングの集いの様子を見ると、眺望ポイントは参加者の癒しの場になっています。参加者数は、ここ数年、横ばいで落ちてきてきました。累計では平成27年に1,000人を超えました。

間伐材の利用に関して、町に伐り取った木をチップにする移動式の機械があり、この機械を借り受けて、間伐材をチップにして足元に敷き詰めています。森林資源の再利用です。また大木も伐り、軽トラでチップの機械があるところまで運びました。チップの敷設は、雑草を抑えるという効用もあります。

最後に癒しの森「音夢路」のウォーキングの集いですが、平成28年度は5月から開始したいと考えています。年5回の開催を計画しています。今年は10年目という節目を迎えます。

今年も路網の整備、森内の整備を継続しており、多くの人に参加してもらいたいと願っています。本日、お越しのみなさまぜひ音夢路に来ていただければと思います。



活動計画作成会議



年5回のウォーキングの集いを開催